

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年五月度 入選句（投稿総数千九百三十七句・小中学投句数千二百六十七句）

特選

選者 白井 静子

花びらと一緒に走る部活動 美濃加茂市 佐古 有希(中三)

春四月。作者は三年生に進級しました。部活動では、三年生は中心的な立場です。ですから、先頭を切って走っていたのかもしれない。風に舞い散る花びらの中を走っていたのでしよう。

新入部員を迎えて新たな目標に向かっていきます。部員の誰もが、一人一人の目標を立てていることでしょう。自分の目標と部としての目標。花びらは、そんな作者たちの想いを励ますかのように舞っていたに違いありません。

自分を励まし仲間を励まし、ひたむきに取り組む姿に清々しさを感じます。

すずの音きこえてきそう藤の花 大垣市 平田 ひなの(小五)

藤の花はたくさん小さな花の集まりです。一つ一つの花は蝶形で、房のように垂れ下がって咲きます。作者はその様子を見て、鈴の集まりのように思ったのです。花と花、房と房が触れ合って、鈴の音がするようだと感じたのでしよう。実際に、三十センチメートルから一メートル近くまで長くなる房ですから、その一つ一つから鈴の音がするとなると、それはそれは美しい音になることでしょう。

薄紫や白色の房から響く、素敵な音色に耳を澄ましてみてください。きつと素敵な音が聞こえるのではないのでしょうか。

自転車のスピード上がるさくら道 大垣市 渡辺 開斗(小五)

作者は五年生。自転車に乗るのにもすっかり慣れて、自由に操っているのでしょうか。そんな作者が、さくら道ではついスピードが出てしまうというのです。作者はどこでこんな体験をしたのでしょうか。大島堤のサイクリングロードは、桜トンネルが美しく、自転車で走るには最高です。

天気が良いだけでも嬉しいのに、そこはさくら道。桜のトンネルを潜り抜ける爽快感は、通ったことのある人にしか分からないでしょう。

スピードの出すぎには要注意ですが、うきうきした楽しい気分が伝わります。

秀逸

たんぽぽがつぼみひらいて空を見る 美濃加茂市 坂井 真樹(中三)

根を張ってドンツとかまえる桜の木 美濃加茂市 中嶋 由枝(中三)

風ふけば空におよぐよこいのぼり 大垣市 篠田 風樹(小二)

たいぐんだあいかわにおよぐこいのぼり 大垣市 炭竈 玲亜(小二)

わたげがね風にのせられたびしてる 大垣市 さるた まお(小二)

こいのぼりせんとうおよぐお父さん 大垣市 金森 公佑(小三)

春色にそまる水ろにたらい舟 大垣市 清水 もも(小三)

やすみなしつばめの母さんはたらくよ 大垣市 大橋 叶夢(小四)

弟の顔より大きい庭の牡丹 大垣市 田中 凜(小四)

こいのぼり雲をぱくぱく食べそうだ 大垣市 糺矢 みう(小五)

入選

新学 期桜と一緒	に歩き出す	美濃加茂市	藤村 亜有巳(中三)
花吹雪みんな	の想いのせて舞う	美濃加茂市	水谷 蒼空(中三)
教室に残る	思い出桜草	美濃加茂市	松永 嘉斗(中三)
あおいそら	きもちよさそうこいのぼり	大垣市	せつ田 みりあ(小二)
ランドセル	いちねんせい	はピカピカだ	服部 瑠花(小二)
ツバメの子	えさがほしいと大きな口	大垣市	木村 さな(小二)
うぐいすが	うまくなけたら二年生	大垣市	木村 けんしん(小二)
せがのび	たはしらの前に母をよぶ	大垣市	小林 りん子(小三)
友だちと	ふじだなの下一輪車	大垣市	吉川 みゆ(小四)
ふきの葉	にかくれかお出すわたしの犬	大垣市	影山 莉乃(小四)

入選

かたつむり	入ってみたいからの中	大垣市	大河 風翔(小四)
かき氷	おとうとのペロまっかつか	大垣市	増田 遥仁(小五)
子どもの日	いとこといっしょにせい比べ	大垣市	田中 愛美(小五)
かしわもち	鼻に広がる葉のにおい	大垣市	小林 昂汰(小五)
おそろい	の着物のかたにのるさくら	大垣市	平田 ひなの(小五)
やつと春	グローブの手入れワクワクと	大垣市	西内 達也(小五)
ホームラン	さくらはなびらまいあがる	大垣市	那須 壮真(小五)
春の風	ゆだんしてるとぼうし飛ぶ	大垣市	日比 可憐(小五)
こどもの日	兄弟みんなでせいくらべ	大垣市	川地 亜依佳(小五)
こいのぼり	あゝの空の海へ行きたそう	大垣市	関谷 晃介(小五)

選者吟

キラキラと夏めく水は跳ね返る

静子